

暗号資産ポートフォリオ分析

基準日: 2026年9月
作成: A. I. P 株式会社

8月のETF流入は2026年最大、BTCは8万ドル台へ上放れ。日米引き締めによる実質金利上昇リスクを注視するBTC・ETHコア戦略

1 前提となるマクロ環境分析（2026年9月現在）

① 8月のビットコイン現物ETF純流入は約35億ドルと2026年最大、機関投資家マネーが本格回帰

米国のビットコイン現物ETFは8月に約35億ドルの純流入を記録し、7月の約1.7億ドルから急増して2025年10月以来最大の月間流入となった。これを追い風にビットコインは9月初旬に一時8万1,000ドル台へ上放れ、イーサリアムも2,500ドル前後へ水準を切り上げた。ただし9月入り後はFRBの利上げ観測とFRB理事の発言を受けて資金流出入が日々交錯しており、方向感是不安定。

② セクターローテーション分析との整合（選別的なリスクオン地合い）

今月のセクターローテーション分析では情報技術・金融・資本財の3セクターが「強気」の一方、一般消費財（自動車）・素材は円高進行を受けて「弱気」に格下げされるなど、市場全体は選別的なリスクオン地合いにある。ハイベータ資産である暗号資産は、AI・半導体への根強い資金需要の恩恵を受けやすい一方、全面的なリスクオンではない点には注意が必要。

③ 価格水準とボラティリティ

ビットコインは9月初旬に約8万1,000ドル（円高進行で円建てでは約1,250万円前後）、イーサリアムは約2,500ドルで推移。8月の急伸で短期的な過熱感もあり、値動きの荒さは引き続き大きい。Fear&Greed指数は「中立～強欲」圏にあり、ポジションサイズの管理が重要となる。

④ 金利・為替：日米の金融引き締めと実質金利上昇がハイベータ資産の重石に

FRBはウォーシュ議長の下で9月利上げ（3.75～4.00%へ）が意識され、日銀も9月17～18日会合で1.25%への追加利上げの見込みと、日米そろって引き締め方向にある。実質金利の上昇は無利回り資産であるビットコイン等の相対的な魅力を低下させる方向に働く。一方、7月以降のドル安・円高でドルインデックス（DXY）が軟化しており、ドル建てリスク資産には支援材料。ドル安と金融引き締めという相反する力学の綱引きが、当面のボラティリティを左右する主要変数となる。

2 最適な構成比率と主要投資指標

■ ポートフォリオ目標配分

BTC (35%)	ETH (25%)	国内関連株 (40%)
--------------	--------------	----------------

※値動きの荒いBTC・ETH現物をコアとしつつ、国内の暗号資産関連上場企業をサテライトとして組み合わせることで、現物のボラティリティを一定程度緩和しながら業界成長を取り込みます。

■ ポートフォリオ予想総合指標（加重平均）

約 \$81,000 BTC価格	約 \$2,500 ETH価格	約 35億ドル BTC現物ETF 8月純流入
2026年で 最大 月間ETF流入額 (2025年10月以来)	中立～強欲 Fear & Greed指数	\$70,000～ \$95,000 今後3ヶ月の想定BTCレンジ

3 採用銘柄・ETFの詳細分析

銘柄名（コード） ／比率	主要指標	株価上下要因・現在の位置	選定理由・スポンサー評価
コア(BTC) ビットコイン (BTC)	価格: 約\$81,000 ETF: 8月純流入 約 35億ドル（2026年 最大）	8月の記録的なETF流入を追い風に8万ドル台 へ上放れ。9月入り後は日々の資金流入が交 錯し、FRBの利上げ観測が上値を抑える。	暗号資産の中核資産として時価総額・流動性と もに圧倒的。機関投資家のポートフォリオ組 み入れが進む「デジタルゴールド」的な位置付 け。
コア(ETH) イーサリアム (ETH)	価格: 約\$2,500 ETF資金流入: 底堅 く推移	現物ETFへの資金流入が続き、8月のBTC急伸 に連れ高して2,500ドル前後へ水準を切り上げ た。	スマートコントラクト基盤の代表格として、ス テキング利回りや実需（DeFi・RWA）の裏 付けを持つ点がBTCとの分散効果を生む。
関連株 マネックスグルー プ (8698)	暗号資産取引所コ インチェック運営 BTC/ETH価格連動 性: 高	ETF資金流入とBTC上放れを受け、取引高・預 かり資産の回復期待が高まっている。	国内有数の暗号資産取引所を傘下に持ち、現 物を保有せずとも業界成長の恩恵を受けられ る代替アクセス手段。
関連株 SBIホールディン グス (8473)	SBI VCトレード運 営 金融コングロマリ ット分散効果: 高	証券・銀行・暗号資産を含む総合金融グルー プとして、単一事業リスクを抑えつつ暗号資産 関連収益も取り込む。日銀の追加利上げは金 融事業側の追い風。	暗号資産事業単体のボラティリティを、他の 金融事業の安定収益で緩和できる点が個人投 資家にとって扱いやすい。
関連株 GMOインターネ ットグループ (9449)	GMOコイン運営 マイニング事業も 保有	取引所事業とマイニング事業の両輪を持ち、 価格上昇局面では収益レバレッジが効きやす い構造。	取引所・マイニングの両面から暗号資産業界 の成長を取り込める、国内では数少ない銘 柄。

4 資金投下・時間分散戦略（2段階投資の執行）

【第1弾】現在（2026年9月）：資金の40%を投入（8月急伸を踏まえ慎重に）

8月の記録的なETF流入でBTCが8万ドル台へ急伸した直後であり、短期的な過熱感を考慮して初回投入は予算の40%に抑え、上記の配分比率（BTC35:ETH25:関連株40）でポジションを確保します。

【第2弾】調整局面（2026年10～11月）：残りの60%を分割投下

11月米中間選挙を控えたリスクオフ局面や、FRB・日銀の利上げでボラティリティが急上昇し想定レンジ下限（BTC \$70,000前後）に接近する場面があれば、残りの60%資金で押し目買いを分割執行します。

5 出口戦略（売り時・利益確定の目安）

■ キャピタル利益確定とリバランスの最適タイミング

① BTC・ETH現物：想定レンジ上限到達時に一部利益確定

想定レンジ上限（BTC \$95,000前後）に到達した場合、ポジションの一部を利益確定し、下落局面での再投資余力を確保します。

② 国内関連株：長期保有（維持）またはリバランス

暗号資産業界の成長は複数年にわたる構造的テーマであるため、関連株は基本的に保有継続とし、四半期ごとの預かり資産・取引高の推移で業績モメンタムを確認します。

